

障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（ICT の導入支援）における導入事例

法人名 株式会社 EACH ONE

事業所名 新の葉

1. 製品名

本事業では、以下の ICT 機器およびシステムを導入した。

- ・顔認証リーダー Stangard2
- ・iDoors CloudV2
- ・King Of Time
- ・利用記録入力用タブレット端末 Lenovo Tab K9
- ・その他、通信機器・システム初期構築等

2. ICT 機器導入前の課題

導入前は、職員の出勤管理をタイムカードで行い、その内容を手作業で転記・確認していた。また、請求業務や給与計算用のデータにも同じ内容を再入力する必要があり、事務作業に時間を要していた。

送迎や食事提供等のサービス実施状況についても手作業で確認・入力しており、入力ミスや確認漏れが発生しやすい状況であった。紙のタイムカードでは、出勤状況を正確に把握しにくい点も課題であった。

3. ICT 機器導入の推進方法

本事業では、顔認証リーダー、認証システム、勤怠管理システム、利用記録入力用タブレット端末を導入した。これにより、出勤・退勤の打刻、勤怠情報の確認、サービス提供状況の入力、請求・給与関連業務に必要な情報管理をシステム上で行える体制を整備した。また、職員が日常業務の中で活用できるよう、打刻方法やタブレットでの入力方法を共有し、現場での運用定着を進めた。

4. ICT 機器導入後の成果

①業務効率化について（具体例を記載）

導入後は、勤怠情報やサービス提供状況をシステム上で確認できるようになり、紙資料の確認、転記、再入力作業を削減できた。特に、タイムカードの内容を請求業務や給与計算用データへ転記する作業が軽減され、事務処理の効率化につながった。また、送迎や食事提供等の実施状況もタブレット端末で確認・入力できるようになり、確認漏れや入力ミスの防止につながった。

申請時の計画では、年間業務時間は導入前 1,894 時間から導入後 910 時間となり、削減率 52.0%を見込んでいる。また、作成文書量についても、導入前の年間 1,788 ページから導入後 960 ページとなり、削減率 46.3%を見込んでいる。

②職員の負担軽減について（具体例を記載）

手作業による確認や転記が減ったことで、事務担当者やサービス管理責任者の負担が軽減された。また、顔認証による打刻により、職員の出勤状況を客観的に把握しやすくなり、勤怠管理の正確性が向上した。月末・月初に集中していた確認作業も軽減され、職員が利用者支援や情報共有に時間を使いやすくなった。

5. 今後の課題

今後は、導入した ICT 機器やシステムを継続的に活用し、職員全体に運用を定着させていく。また、打刻漏れや入力漏れが発生しないよう、日々の確認体制を整える。削減された事務作業時間を利用者支援の充実やサービス品質の向上に活用し、より働きやすい職場環境づくりにつなげていく。

6. 写真（任意）

